

From JESEA（地震科学探査機構） mag2 0001592103
発信元 mag2premium.com
To nishimura@kazdon.name
日時 2023/08/30 水曜日 16:01

MEGA地震予測 2023年8月30日発行（Vol.23,No.34）



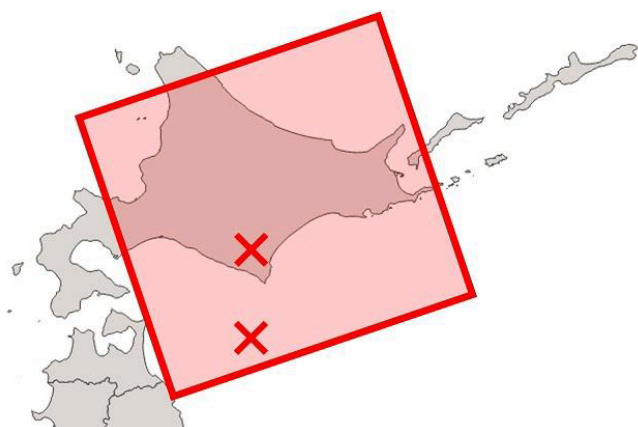
2023年8月30日発行（Vol.23,No.34）

1. ピンポイント予測

現在、新規のピンポイント予測は発出しておりません。8月29日までのものはピンポイント予測レビューをご覧ください。

※「ピンポイント予測」とは「想定場所でマグニチュード6クラス以上の地震が1か月以内に起こる」ことを予測するものです。

【ピンポイント予測レビュー】



予測

2023.07. 26発出
エリア：北海道
時期：08/29まで
規模：M5.5±0.5



結果

8/19 十勝地方南部
最大震度2 M5.1



注意エリア：南西諸島（沖縄県・鹿児島県奄美地方）

4cm以上の週間高さ変動が沖縄県の「沖縄石川」に現れました。

2021年1月を起点にしたこのエリアの高さ方向の変動は沈降しています。ここ1週間の高さ方向の動きは隆起しましたが、先々週大きく沈降しているのもまだ沈降が優勢です。前週と比べて1.0cm以上急激に隆起した点は、沖縄県の「北谷」、「糸満」に現れました。

南西諸島の水平変動はほぼ静穏です。大東諸島には北西方向にやや大きな水平変動が現れています。

4. 特集：「関東大震災から100年」 ～次の首都圏大地震はいつ起きるのか～

大地震の周期的再現年を活用したMEGA地震長期予測

はじめに

文部科学省の地震調査研究推進本部地震調査委員会の評価では、首都直下地震で想定されるマグニチュード7程度の地震の30年以内の発生確率は、70%程度という、極めて高い値になっています。しかし、この長期予測では、防災の備えをする自治体や企業、一般の人々にとって具体的なイメージがつかめず「大きな地震が30年間に起きるかもしれない」という曖昧な情報でしかないと言えます。

米国の科学者であるBakun W.H.らは1985年にカリフォルニア州にあるサンアンドレアス断層に沿って M6クラスの地震が1857年、1881年、1901年、1922年、1934年、1966年とほぼ22年周期で起きていることから、1988年±5年の間に95%の確率でM6クラスの地震が来ると予測しました。結果はM6.0の地震が2004年に起きてこの予測は的中しませんでした。

JESEAは観測データに基づいた科学的なデータ解析によって毎週地震予測をしています。ここでは、地震の周期性に関する考察から地震を予測します。これまでも他の研究者では周期性を考慮した地震予測はありましたが、私たちは新たに周期的再現年を考慮した新しい地震予測を考案し

ました。これは、地震を長期的に予測する貴重な試みと言えます。

JESEAでは、過去に起きた大地震の発生年の相互間で重複する同一年の周期があることに着目して新しい長期的地震予測方法を開発しました。私たちは、この方法を首都圏に適用して、何年に大地震が発生する可能性が高いかを予測しました。驚くことに同エリアにおいて周期的再現性が認められ、政府の確率論的長期予測よりも、具体的な防災の備えになり得ると考えます。計算式の詳細は企業秘密となりますのでお伝え出来ませんが、その計算によると3つの周期を導き出すことができました。70年周期と103年周期と132年周期です。

計算に使用した過去の大地震

主な首都圏で起きた地震		
発生日	名称	マグニチュード
2005年7月23日	千葉県北西部地震	M6.0
1987年12月17日	千葉県東方沖地震	M6.7
1956年 9月30日	千葉県中部地震	M6.3
1923年 9月 1日	関東大震災（大正関東地震）	M7.9
1922年 4月26日	浦賀水道地震	M6.8
1921年12月 8日	茨城県南部地震	M7.0
1915年11月16日	房総半島群発地震	M6.0
1895年 1月18日	茨城県南部地震	M7.2
1894年10月 7日	東京湾地震	M6.7
1894年 6月20日	明治 東京地震	M7.0
1855年11月11日	安政 江戸地震	M6.9
1853年 3月11日	嘉永 小田原地震	M6.7
1782年 8月23日	天明 小田原地震	M7.0
1703年12月31日	元禄地震	M8.2
1697年11月25日	元禄 鎌倉地震	M6.5
1633年 3月 1日	寛永 小田原地震	M7.0

・ 70年周期

1853+70=1923 嘉永小田原地震+70年=関東大震災

1956+70=2026 千葉県中部地震+70年=2026年

・ 103年周期

1853+103=1956 嘉永小田原地震+103年=千葉県中部地震

1923+103=2026 関東大震災+103年=2026年

・ 132年周期

1855+132=1987 安政江戸地震+132年=千葉県東方沖地震

1894+132=2026 東京湾地震・明治東京地震+132年=2026年

首都圏における大地震の長期予測

首都圏に関する結果を見ると、2026年が一番リスクの高い年となりました。2026年は、70年、103年、132年で複数の同一周期を示す事例が見られます。これらの年を遡ると、1853年、1855年、1894年、1923年、1956年の大地震と何らかの周期性の関連があることが分かります。1923年は関東大震災が発生した年です。

結論：首都圏は2026年にM7クラスの大地震が発生する可能性が高い

備考

- 1)JESEAが開発した過去の大地震の周期的再現年を活用した長期予測は、JESEAのオリジナルであり、政府機関が公開している長期予測とは異なります。また、弊社が通常行っている観測データを解析した予測方法ではありません。あくまでも参考情報としてお考え下さい。
- 2)この長期予測は、年単位で予測できることから従来の確率的パーセンテージ表示よりも具体的な防災の備えにより役立つと考えます。
- 3)他のエリアにおける過去の大地震でも同様の周期再現性が見られるため、この手法はある程度の信頼度があり、その発生確率は70%程度です。
- 4)本長期予測方法は、どの大地震で計算するかにより危険度の高い年が異なることになります。

5. コラム「地震が変えた日本史」

元禄・宝永大地震と犬公方
歴史時代作家:早見 俊 第18回

元禄関東地震から宝永大地震、富士山噴火という空前絶後の災害に見舞われた綱吉晩年の治世、巷には綱吉への怨嗟の聲が沸き起こりました。

貨幣改鑄によって悪貨を普及させたことへの天罰が下った、